

分科会の記録 <第1 A 分科会 教育課程に関する課題>

【提言者2】 福岡県 大野城市立御陵中学校 藤田 天平
【提言主題】 現代的諸課題に対応するための副校長・教頭会の組織的取組 －「汎用性」と「独自性」からの分析をとおして－
【協議の柱】 教育課程編成に関する副校長・教頭の連携の在り方
【グループ協議 報告】 ・教頭会の組織がしっかりとしている。校長会との連携はとても参考となるものであった。 ・目的やテーマに基づいて汎用性と独自性を大事にし、どの地域の児童生徒にも同じ学びが継続的にできていることが素晴らしい。 ・教頭会の取組はもちろんのこと、コミュニティ・スクールによる取組はとても参考となるものであった。 ・自治体の規模に差があるため、筑紫野市ほど組織が充実した組織は少ない。そのため、教育課程については別の組織が担っている場合が多い。教科の授業研修については自治体単位で行っている。 ・教頭会としての組織はあるものの十分に活用できていない。共通実践の重要性は認識しているが、学校数も多く、各校区の実情が異なっているために共通実践まで至っていないのが現状である。 ・「筑紫野は一つ」という心意気を感じた。校長、教頭、主幹、指導教諭などが、それぞれの立場で連携しており、自然体の取組となっている。そのため、異動しても継続して取り組める仕組みが整っている。 ・コロナ禍の影響は大きい。行事の精選や時程の工夫など多くの課題がある。目的に立ち返り、真に必要なものに絞っていくことを大切に、各地域、各学校にて取り組んでいる。 ・持続可能な組織運営に対しては、オンライン、集合それぞれの良さを活かし、それぞれの地域の実情に応じて取り組んでいる。自治体によっては、職員研修や職員会議にオンラインを取り入れている。 ・「スクラップ アンド ビルド」は難しい部分がある。慣習に流されないことの重要性は認識している。児童生徒の学びに「真に必要な」見直す取組を各地区、各学校にて行っている。コロナ禍が一つの大きな転機になっている。見直すに当たって、本日のグループ協議は大変有意義であった。 ・「コロナ禍だからできないではなく、できることを率先してやっていくことで進んでいくこともある。タブレットPCを活用した授業づくりやオンラインを活用した研修などはチャンスだと考える。
【指導助言：全公教顧問会】（佐賀県学校教育課参事 長尾 真司 氏） ・課題を共有し、課題に対して協働的に組織的に見直しを図っている組織に対して感銘を受けた。 ①公務運営研修では、1つの学校の実践から各学校において実情に合わせながらアレンジし、自校での実践につなげている。これは、独自性から汎用性のあるものへと転換している事例である。 ②授業改善では、新学習指導要領完全実施に伴い、主体的・対話的で深い学びとなる授業づくりが重要となるが、コロナ禍のため、対話が困難になっている。このような中に、工夫して授業を組み立てていくことは、今後のヒントにつながっていくことだろう。 ・GIGA スクール構想に対しては、実は佐賀県において高校にノウハウがある。先だって一人1台のタブレットPCによる授業が実践されていた。現在、市町立小中学校に対して、一人1台端末の活用の仕方等の支援を行っている。これは、自治体によって実情が異なることもあるため、地域の特長を活かしながら進める必要がある。 ・組織の編成については、スクラップ アンド ビルド があったが、前年踏襲からの脱却が大切になる。前年度のうちに検討し、構築していくと円滑な組織編成につながるだろう。 ・研修等については、オンライン型やオンデマンド、集合型など様々な形態での研修が行われている。オンライン型と集合型の混合型(ハイブリッド型)もあるのではないかと考える。研修内容や参加対象者等を検討し、実情に即した方法を用いて実施していくことが大切である。 ・コロナ禍後の対応が重要。これまで対応してきたことは、今後の宝といえる。是非コロナ禍で対応してきたノウハウを活かした取組を継続して行っていきたい。
【指導助言：佐賀県】（和歌山県田辺市立鮎川小学校長 中家 章一 氏） ・観点設定により焦点化された取組であった。 ・筑紫野地区としての取組であり、組織だった取組であることに驚きを感じた。 ・協働性については、授業改善に対して、校長、副校長が関与しており地区全体の授業力向上が図られている。 ・学校への愛着から、自校のみの取組、ノウハウに終わりがちであるが、学校間の競争ではなく共有、連携が必要で大切となってくる。 ・リサーチが大切である。学校の現状把握に努めることが大切であり、R-PDCA サイクルを回していくことを心がける。 ・学級全体だけ、学年全体だけでなく、学校全体を見ることの大切さを教職員全体に対して伝えることが大切。教職員全体で学校の現状を知り、学校の課題を把握し、教職員が一丸となって取り組んでいくことができる。 ・研修に対しては、多忙な中での研修となる。児童生徒がよりよく成長する、教師がよりよく成長する、そんな研修の設定が大切となる。 ・日頃の挨拶、コミュニケーションが大切である。児童生徒に対しては、その大切さを伝え続けることが重要である。伝え続けることで、児童生徒は変わる。 ・地域から児童生徒が褒められると嬉しいものである。担任にとっても児童生徒が褒められると嬉しいのではないかと。